

## 障害者支援施設 鹿野第二かちみ園

### 1 基本方針

様々な障がい特性を理解し、その特性に対する専門性を高めるとともに、一人ひとりの個性を尊重することで、利用者が健やかにそして自らの意思をもって自分らしい生活を営むことができるように援助していく。

また、社会参加を促進するとともに、地域社会に開かれた施設運営を目指す。

### 2 利用者の状況（令和4年3月31日現在）

#### (1) 入所者状況

(人)

利用人数			前年度末利用者数	令和3年度中の入退所状況								利用延人員	定員に対する年間平均稼働率	年度末利用者数
				入所人員	退所人員	退所理由別								
						地域移行 GH	アパ-ト等	家庭復帰	施設移管	契約解除(入職)	死亡			
生活介護	4-12月	70	72	1	3	0	0	0	0	1	2	12,320	86.7%	—
	1-3月	60	—	0	0	0	0	0	0	0	0	3,919	98.9%	70
施設入所支援	4-12月	70	63	0	3	0	0	0	0	1	3	15,865	82.4%	—
	1-3月	60	—	0	0	0	0	0	0	0	0	5,109	94.6%	60
2 年 繰	生活介護	70	77	0	5	1	0	0	2	1	1	17,670	93.8%	72
	施設入所支援	70	68	0	5	1	0	0	2	1	1	22,910	89.8%	63

※令和4年1月より生活介護・施設入所支援 定員70名→60名

#### (2) 障害支援区分

##### ①生活介護

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	3	12	18	34
女性	0	0	0	0	3	14	19	36
計	0	0	0	1	6	26	37	70

##### ②施設入所支援

(人)

性別	障害支援区分							計
	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	
男性	0	0	0	1	2	12	17	32
女性	0	0	0	0	1	9	18	28
計	0	0	0	1	3	21	35	60

### 3 事業の実施状況

#### (1) 権利擁護と意思決定支援

利用者の尊厳を守るため、全職員対象に「障がい者の人権と虐待について考える」のテーマで権利擁護に関する研修を開催したり、虐待の要因にもなり得る職員のメンタルヘルスについてもセルフケアやラインケアの研修を行った。

成年後見制度については今年度新たに2名が利用され、さらに1名申請中である。

意思決定を考慮した個別支援計画の作成は定着しつつある。

意思疎通が困難な方に対しては、コミュニケーションサンプルや絵カード交換式コミュニケーションシステムの手法を使った意思の表出にも取り組んでいる。

#### (2) 利用者支援の専門性の向上

ア 行動障がいのある方への専門的支援については、毎月2回行動障がい部会によるスーパーバイズを開催し、スーパーバイザーからの助言を参考に、強度行動障がいのある方や自閉症及び関連領域のコミュニケーション等の障がいを持つ方の課題行動の軽減や自立に向けた支援方法の検討を行った。

また強度行動障害支援者養成研修にも基礎5名、実践3名が参加し専門性を高めた。

イ 身体障がいやフレイル状態の方への専門的支援は理学療法士がリハビリテーション計画を作成し、個々に応じた機能訓練、生活リハビリ、温熱療法等を行い、随時見直しも行った。また下半期にはエアロバイク、振動マシン、滑車などの運動器具を導入し、利用者のフレイル予防や運動不足の解消として活用している。

骨粗鬆症対策としては効果が実証されているビタミンDを強化した食品の摂取を推奨し、日中活動の中で日光浴の時間を設け、定期的に骨密度の測定を行う等の工夫をしている。

ウ 精神障がいのある方への専門的支援については、定期的な精神科医の往診により、医療との連携に努め、障がい特性を理解した上での支援に努めた。

エ その他の支援

アート活動においては、とりぎん文化会館での「いろどり作品展（7/14～21）」、中電ふれあいホールでの作品展（2/10～14）と合わせて2回の個展を開催することができた。

来場者からはとても好評であり、ご利用者のやりがいや生きがいに繋がっている。

また、鳥取県が主催の「あいサポート・アートとっとり展」への出展も行った。

その他、音楽療法、各種アクティビティ、おやつ作りなどのユニット活動をとおして、日々の生活が単調にならないように心掛けている。

### (3) 地域移行の推進

今年度、新たにグループホーム等の地域生活に移行された方はいないが、福祉的就労については年度途中より就労継続支援B型作業所の利用日数が増え、意欲的に通所されている方がある。

### (4) 施設における新しい生活様式の推進

コロナ禍であっても楽しみを持って生活できるよう、自治会等が中心となってご利用者の希望を取り入れながら、毎月様々なイベントを開催した。

特に地区納涼祭の代わりに園内納涼祭やゲーム大会を行ったり、福祉団体による球技大会や地区運動会の代わりに、ユニバーサルスポーツセンター「ノバリア」での運動会や園内ホールでの障がい者スポレクなどを行ったり、ユニットにゲームルームを設置してスロットマシンやミニ卓球などを楽しんでもらっている。

### (5) 職員の専門性の向上とメンタルヘルスの推進

ア OJT：新任職員に対しオリエンテーションで「個別支援計画」や「強度行動障がい」の研修を行い、その他年間を通して「コロナゾーニング」「救命講習」「食中毒」「移乗と歩行」「姿勢と肩甲骨・歩行」「音楽療法」「知的障がいと認知症」「権利擁護・虐待防止」「メンタルヘルス・セルフケア」「メンタルヘルス・ラインケア」「感染予防」「ハラスメント」等様々な研修を園独自に開催し、専門性の向上とメンタルヘルスの推進を目指した。

イ Off-JT：「虐待防止研修」「サビ管研修」「強度行動障がい支援者養成研修」等、専門性に直結するような研修を優先に、内容を吟味しながら可能な限り参加し、~~ていった~~。

ウ SDS：資格取得を促している。今年度も国家資格を受験した職員や将来受検に向けて勉強に取り組んでいる職員もいる。

エ チューター制度：新規採用職員3名を対象に実施。先輩職員から助言を受け、定期的に振り返りを行うことで必要な業務を早めに覚える事が出来た。

また業務に対する悩み等の相談もしやすく、職場への定着にも効果がある。

### (6) 経営改善・基盤の確立

ア 慢性的に支援員の欠員状態が続き、利用者の重度化・病弱化も増えたことから、支援の質を落とさないために、入所・生活介護とも定員減を目指し、1月より入所・生活介護とも70名から60名に変更した。

イ 稼働率

・生活介護

(70名定員) 4～12月 86.71% (60名定員) 1～3月 98.94%

・施設入所支援

(70名定員) 4～12月 82.42% (60名定員) 1～3月 94.63%

60名定員となり、介護報酬単価の増や重度障害者支援加算の新規取得で1月以降増収となった。

また、入院を減らす良策として、転倒・転落による骨折や喉詰めの防止対策を徹底するとともに、行動障がいのある方についても、自傷、他害、異食等のリスクを予見しながら、安全な生活への支援を行っている。

#### 4 実習、ボランティアの受入状況

##### (1) 実習の受入実績

実習受入先	実習期間(月)	実人員	延人員
鳥取短期大学(幼児教育学科)	8月～9月	4人	40人
鳥取社会福祉専門学校	11月～12月	2人	10人
計		6人	50人

##### (2) ボランティアの受入実績

鹿野町日赤奉仕団（繕い物）、職員OB（草刈り） [延べ46人]

#### 5 附帯事業

(1) 短期入所事業 定員 3名及び空床型

(2) 日中一時支援事業 定員 上記同様

(3) 利用実績 (人)

事業区分	今年度利用者数		前年度実績利用者数	
	実人員	延人員	実人員	延人員
短期入所事業(宿泊有)	9	89	9	136
日中一時支援事業	0	0	0	0